

## 着物と私(1)

## “Kimono”の世界を探して

山本 真巳



「着物って堅苦しいし難しそう」

これが一年前に私の着物に対して感じていたイメージでした。

私が着物に関心を持ち始めたのは、一年ほど前の夏のことです。友達が着付け教室に通い始めたという話を聞き、今まであまり良い印象を抱いていなかった着物やゆかたを実際に身に着けることがどのようなものであるかということに興味を持ち始めました。それまで着たことのある着物といえば成人式の振袖だけでしたが、この友達が着物について話すのを聞いているうちに着物を知りたいと思うようになり、実際に着付け教室に通い始めました。それからというもの、着付けの練習を含めて週に一度は着物を身につけています。さらには、昨年の紅葉の時期やお正月、桜の時期にも着物を着て出掛けたり、最近ではゆかた姿で祇園祭へ行ったりして着物を楽しんでいます。

図書館へ足を運ぶ中で、やはり気になってしまうのも「着物」に関する本です。本学の図書館には着物の本も数多くあります。文章を中心にして写真を入れた書物や、美しいビジュアルな書物、これらは和書ですが、分館のアジア関係図書館には英語で書かれたものはもちろん、フランス語やドイツ語などで書かれた「Kimono」に関する洋書もあります。これらの本を全部読んだわけではありませんが、それでも多くの本に目を通してきました。中でも私のお気に入りにはビジュアルに作られた本です。これらは私にとって「参考書」であり、また「娯楽」でもあります。「参考書」というのは、これらの本から今まで知らなかった着物の知識を吸収できるものだからです。和装小物の名称、帯の結び方、着物でのマナー、季節を感じるコーディネイトや、アンティーク着物を扱っ



着物のファッションショーにて

ているお店の情報など、着物を取り巻く環境を詳しく教えてください。「環境」には、寺社にある日本庭園の草木の一つ一つから、古都京都の街並みというものも含まれ、これらも着物を演出する材料になっています。着物の参考書を読むことが今では私の趣味の一環です。

このようなことに没頭していると、着物を通して日本の伝統や文化の幅広さ、またその素晴らしさを実感できます。それが高じて、この春から単位互換制度で茶道の授業を履修し始めました。このまま行くと、ますます日本の伝統の「とりこ」になってしまいそうです。

「素敵なKimonoの世界を世界中の人々にどんどん発信する」

それが外国語を学ぶ者の役目ではないでしょうか。

やまもと まみ(英米語学科4年次生)